

日本産業衛生学会 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会事務局
(事務局 藤木幸雄)
〒571-0045 大阪府門真市殿島町7番6号
松下産業衛生科学センター内
FAX 06-902-2019
発行責任者(地方会長) 堀口 俊一

第46回近畿地方会総会および特別講演会のご案内

日本産業衛生学会近畿地方会 会長 堀口 俊一

日本産業衛生学会近畿地方会の総会を開催します。会員の多数の参加をお待ちしています。

日 時 平成10年5月22日(金) 午後1時30分から4時50分まで

場 所 大阪市立大学医学部 医療研修センター 「あべのメディックス」
大阪市阿倍野区旭町1-2-7 7階研修室BC
J R天王寺駅より徒歩10分

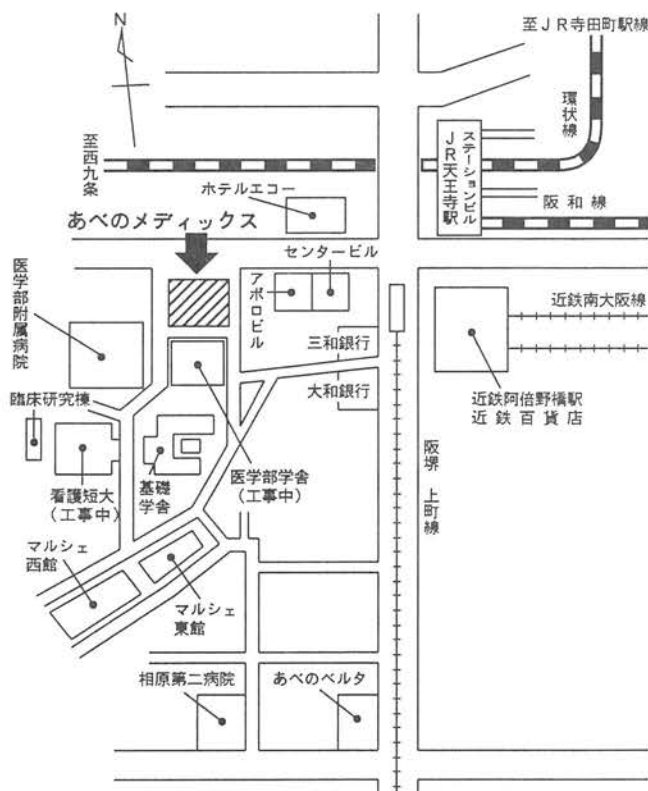
—— 総会プログラム ——

議 事 午後1時30分～2時20分

- (1) 平成9年度事業報告
おおよび平成9年度決算報告
- (2) 平成10年度事業計画(案)
おおよび平成10年度予算(案)
- (3) その他

—— 特別講演会 午後2時30分～4時50分 ——

1. 生活習慣の評価と管理に対する気相系呼吸機能検査の役割
目黒 忠道(近畿大学医学部・衛生)
 2. 産業医活動の目標と評価
— 三菱電機伊丹健康増進センターにおける試み —
加藤 俊夫(三菱電機伊丹健康増進センター)
 3. 生活習慣の改善による血圧の低下
上島 弘嗣(滋賀医科大学・福祉保健医学)
- 司会・進行 河野 公一(大阪医科大学衛生・公衆衛生)



日本医師会認定産業医制度の単位について

この特別講演会は、日本医師会認定産業医制度の単位が認められていますので、医師会の産業医学研修手帳をご持参下さい。

なお、今回は日本産業衛生学会員以外の参加は認められておりません。御了承ください。

評議員の皆様へ

評議員会を総会の前に開催します。評議員の方はご参加下さい。

日本産業衛生学会近畿地方会 会長 堀口 俊一
日 時：平成10年5月22日(金) 午後1時～1時30分
場 所：総会会場と同じ

評議員の皆様へ：地方会ニュースに同封されています総会および評議員会出席確認葉書を5月15日までに必ずご返送下さい。

総会資料

平成9年度決算及び平成10年度予算(案)

項 目	平成9年度		平成10年度
	予 算 額	決 算 額	予 算(案)
収入の部			
前期繰越金	2,000,955	2,000,955	1,596,660
本部交付金	1,400,000	1,455,200	1,400,000
地方会費	2,000,000	1,816,000	2,000,000
役員選挙積立金解約	0	0	0
利息	30,000	0	30,000
雑収入	0	214,500	0
収入合計	5,430,955	5,486,655	5,026,660
支出の部			
需要費			
印刷費	790,000	728,973	1,000,000
備品	0	776,055	0
消耗品	120,000	90,305	120,000
通信運搬費	630,000	655,201	800,000
需要費合計	1,540,000	2,250,534	1,920,000
地方会運営費			
総会費	85,000	92,864	100,000
学会費	300,000	300,000	300,000
幹事、評議員会費	105,000	52,090	105,000
地方会運営費合計	490,000	444,954	505,000
部会活動費			
産業医部会	100,000	100,840	100,000
産業看護部会	100,000	100,340	100,000
部会活動費合計	200,000	201,180	200,000
研究会費			
研究会費	350,000	151,680	350,000
研修会等の補助	90,000	0	90,000
研究会費合計	440,000	151,680	440,000
事務局費			
活動費	360,000	360,000	360,000
学術担当費			
学術担当費	100,000	105,000	110,000
広報活動費			
広報活動費	100,000	23,875	110,000
理事活動費			
理事活動費	100,000	95,000	110,000
活動費合計			
活動費合計	300,000	223,875	330,000
選挙費用			
選挙費用	0	0	500,000
別途積立金			
役員選挙積立金	100,000	100,000	0
記念事業積立金	100,000	100,000	100,000
積立金合計	200,000	200,000	100,000
予備費			
予備費	1,800,955	0	571,660
諸雑費			
諸雑費	100,000	57,772	100,000
次年度繰越し金			
次年度繰越し金	0	1,596,660	571,660
支出合計	5,430,955	5,486,655	5,026,660

財産目録	1. 積立金 定期郵便預金	2,900,000円	2. パソコン Panasonic Let's Note	1台
	(第50回記念事業積立金)	2,500,000円)	3. NEC98ノート(液晶部不良)	1台
	(役員選挙積立金)	200,000円)	4. エプソンレーザープリンター	1台
	今年度積み立て金(第50回、選挙)	200,000円		

事務局からのお願い

地方会費納入のお願い

- ① 地方会費は、2000円です。同封の振込用紙で郵便局から払い込んでください。

口座番号は00980-6-120808

加入者名：日本産業衛生学会近畿地方会

- ② 振込人と会員名が異なるときは必ず通信欄に会員名をご記入ください。

- ③ 経費節減のため領収書の送付はご容赦ください。振込用紙の控を領収書に替えさせていただきます。

- ④ 総会当日、地方会費の納入を受け付けます。ご利用ください(地方会から領収書を発行します)。

平成9年度 日本産業衛生学会近畿地方会事業報告

1. 第45回 近畿地方会総会

日時：平成9年5月16日（金）

場所：大阪市立大学医学部 附属病院 5階講堂

出席者数：370名（出席36名、委任状334名）総会成立
シンポジウム 「国際化のなかでの産業保健」

(1) 受入れ外国人労働者の物理的環境の快適化の課題
辻 啓次郎（田辺市地域産業保健センター 副センター長）
長野 進（田辺市地域産業保健センター コーディネーター）

(2) 海外派遣労働者の健康管理
阪上 皖庸（松下健康管理センター所長）

(3) 発展途上国の労働と労働者の健康
橋本 和夫（金沢大学名誉教授）
座長 武田眞太郎（和歌山県立医科大学 看護短期大学部）

2. 第37回近畿産業衛生学会

学会長 住野 公昭（神戸大学医学部 公衆衛生）

日時：平成9年11月15日（土）

場所：神戸大学医学部 附属病院 4、5講堂

出席者数：365名

(1) 特別講演「病理学からみた石綿肺症」
伊東 宏（神戸大学医学部 病理教授）
座長 小泉 直子（兵庫医科大学 公衆衛生）

(2) シンポジウム
「法改正にともなう産業スタッフの権限強化と責務」

坂本 栄生（兵庫労働基準局）
郷司 純子（三菱重工業 神戸造船所）
矢野 武（神戸市医師会）
長澤 孝子（積水化学工業 栗東工場）
徳永 力雄（関西医科大学 衛生）

司会 住野 公昭（神戸大学医学部 公衆衛生）

3. 評議員会

(1) 第1回：大阪市立大学医学部 附属病院
平成9年5月16日（金）

(2) 第2回：神戸大学医学部 附属病院
平成9年11月15日（土）

4. 幹事会

(1) 第1回：大阪市立大学医学部 附属病院
平成9年5月16日（金）

(2) 第2回：大阪市立大学医学部 医療研修センター
平成9年7月22日（火）

(3) 第3回：神戸大学医学部 附属病院
平成9年11月15日（土）

(4) 第4回：大阪市立大学医学部 医療研修センター
平成10年1月13日（月）

5. 近畿地方会ニュース

(1) 近畿地方会ニュース30号 平成9年5月1日

(2) 近畿地方会ニュース31号 平成9年7月1日

(3) 近畿地方会ニュース32号 平成9年10月15日

(4) 近畿地方会ニュース33号 平成10年1月1日

6. 産業医・産業看護部会

(1) 第2回近畿産業医・産業看護協議会

日時：平成9年9月4日（木）

場所：大阪府医師会館大ホール

特別講演

「健康教育の理論と実際－特に企画と評価を中心に－」
實成 文彦（香川医科大学人間環境医学講座衛生・公衆衛生学教室）
シンポジウム「効果的な健康教育のすすめ方」

兼高 明生 産業医（愛滋会 矢倉診療所）

玉木 登志枝 産業看護職（ダイハツ健康保険組合）

藤田 興治 事業者（三田工業人事部）

能見 賢二 THPトレーナー（モロゾフ安全衛生推進課）

指定発言者 藤堂 正人（近畿健康管理センター滋賀）

(2) 第2回近畿産業医部会

日時：平成10年1月21日（水）

場所：大阪府医師会館

特別講演

「産業保健における人間工学

－職場や仕事をいかに測定・評価するか－」

瀬尾 明彦（福井医科大学 環境保健助教授）

司会 藤木 幸雄（松下産業衛生科学センター）

シンポジウム

「産業疲労と現場での対応」

筋疲労の生理学

森谷 敏夫（京都大学大学院 人間・環境学教室 助教授）

疲労調査のための作業観察法

近藤 雄二（天理大学 体育学部 助教授）

自動車工場における作業負担評価と改善事例

舟橋 敦（マツダ健康管理センター 産業医）

職場の人間工学的な対策に於ける産業医の役割

－腰痛対策の事例を通して－

宇土 博（日新製鋼具製鉄所 産業医）

司会 茂原 治（和歌山健康センター理事長）

(3) 第2回近畿産業看護部会研修会

日時：平成10年3月6日（金）

場所：NTT内本町会館

基調講演「効果的な保健指導を考える」

－パソコン活用の検討－

内藤 義彦（大阪府立成人病センター-集団検診第1部 主幹業医長）

パネルディスカッション

日野ゆう子（富士通オアシス開発 保健婦）

当麻 恵（大阪ガス人事部 健康推進チーム 保健婦）

7. 研究会活動

- (1) 第27回有機溶剤中毒研究会(本部研究会)
有機溶剤中毒研究会(地方会研究会)合同研究会
平成9年9月26日 加太国民休暇村
- (2) 第3回職業性筋骨格系障害研究会/第42回日本
産業衛生学会頸肩腕障害研究会合同研究会
平成9年8月9日 京都同志社大学今出川キャンパス

- (3) じん肺研究会/職業性腫瘍研究会合同研究会
平成9年10月16日 大阪府立成人病センター
- (4) 第46回産業疲労研究会
平成9年11月22日 京都工場保健会
- (5) 産業精神衛生研究会
平成10年1月30日 福岡県看護等研究・研修センター

平成10年度日本産業衛生学会近畿地方会事業計画(案)

1. 第46回 近畿地方会総会

日時:平成10年5月22日(金)
場所:大阪市立大学医学部
医療研修センター 「あべのメデックス」

- (1) 特別講演会

2. 第38回近畿産業衛生学会

学会長 上島 弘嗣(滋賀医科大学 福祉保健医学講座)
日時:平成10年11月14日(土) 9:30~17:00
場所:草津市立サンサンホール

- (1) 特別講演
(2) シンポジウム

3. 評議員会

- (1) 第1回:大阪市立大学医学部 医療研修センター
平成10年5月22日(金)
- (2) 第2回:草津市立サンサンホール
平成10年11月14日(土)

4. 幹事会

- (1) 第1回:大阪市立大学医学部 医療研修センター
平成10年5月22日(金)
- (2) 第2回:——未定

平成10年7月

- (3) 第3回:草津市立サンサンホール
平成10年11月14日(土)
- (4) 第4回:——未定
平成11年1月

5. 近畿地方会ニュース

- (1) 近畿地方会ニュース34号 平成10年5月1日
(2) 近畿地方会ニュース35号 平成10年7月1日
(3) 近畿地方会ニュース36号 平成10年10月15日
(4) 近畿地方会ニュース37号 平成11年1月1日

6. 産業医・産業看護部会

- (1) 第3回近畿産業医・産業看護部会
平成10年6月17日(水)
- (2) 第8回産業医部会・産業看護全国協議会
平成10年10月6日(火)

7. 研究会活動

8. 研究室見学会

- (1) 大阪医科大学 衛生・公衆衛生学教室
平成10年4月15日(水)

第2回近畿産業看護部会研修会報告

長澤 孝子(積水化学工業・保健婦)

平成10年3月6日(金), NTT内本町会館にて「効果的な保健指導を考える—パソコン活用の検討—」をテーマに開催され, 64人の参加があった。

まず最初に, 内藤義彦先生(大阪府立成人病センター)の基調講演がおこなわれた。

- ① パソコンは, 仕事で与えられたものだけでなく, 自分で買ったものを持ち, インターネットや電子メールなどを体験してみる。
- ② 保健指導におけるパソコンの利用形態には簡易集計, データ管理, 通信, 統計処理, 健康教育専用ソフトの利用などがあげられる。
- ③ パソコン利用の注意点として, 人間的交流や会話をうまくすすめながら, あくまでも道具として使っていくことが大切である。

以上の内容で, 先生愛用の機材を持ち込みのうえ, 実演をとり入れた講義で, 皆熱心に聞き入っていた。

その後2名のパネラーから, 現場でのパソコン活用についての発表があった。

日野ゆう子保健婦(富士通オアシス開発)は, 自社の健康管理システムについて, その概念から全体の構成, データベースにわたるまでを解り易く紹介された。そして, パソコンを, 社員の健康管理という本来の目的に, より良い形で利用するよう創意工夫されていることを報告された。また, メール機能を使った相談は, 開始後4ヶ月で, 従来の1年分の相談件数が寄せられていることを紹介された。

当麻恵保健婦(大阪ガス健康保険組合)は, 自社の健康情報システム図を提示したうえで, 健康診断や健康相談, 保健指導などの実際場面での活用や, 全体の把握・評価にいて報告された。効果的かつ効率的な健康サービスの提供をねらいとして, 社内関係者の努力のうえに, 保健婦のシステム活用が実現している事例報告であった。

最後の全体討議では, フロアーから次々と質問が出され, 参加者の関心の高さを伺わせた。それぞれの企業の実情に関する質問が多かったが, 内藤先生と2人のパネラーの助言で, 多くのヒントを得たものと思われる。

.....→ 『つぶやき』 コーナー ←.....

INTERMAP(栄養と血圧に関する国際共同研究)
奮 戦 記

橋本 勉 (和歌山県立医科大学 公衆衛生)

当教室では現在、栄養と血圧に関する国際共同研究インターマップ (INTERMAP; International collaborative study on macronutrient and blood pressure) に参加している。これは食塩と血圧に関する国際共同研究インターソルト (INTERSALT) に端を発している。インターソルトには32か国52研究所が参加した。その成果は極めて高く評価され、続々と論文が発表され、現在も解析は継続中である。インターマップではこの研究をさらに押し進め、摂取栄養素と血圧の関連を国際共同研究を通じて明らかにしようとするものである。しかし栄養調査の標準化は食塩摂取調査の標準化よりも複雑で、自国の食品成分表が整備されていることが参加条件となり、2年間の準備期間を経て、結局、日中英米4か国の共同研究として実現したものである。

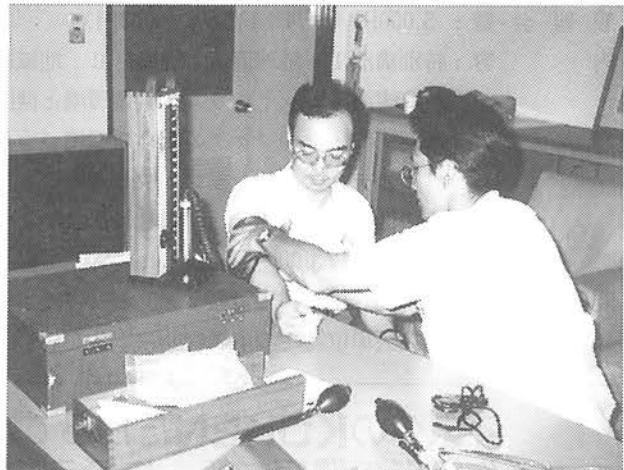
対象は20集団で、国際本部はシカゴ (Professor Stampler; Northwestern University) とロンドン (Professor Elliott; Imperial College at St Mary's) におかれ、栄養調査本部はチャペル・ヒル、合衆国 (Professor Dennis; North Carolina University) に、国際検査センターはリュウベン、ベルギー (Professor Kesteloot; St Rafael University) に設けられた。日本では滋賀医科大学福祉保健医学教室 (上島弘嗣教授) が事務局となり、国内4か所 (北海道室蘭市、富山県黒部市、滋賀県愛東町、和歌山市) の参加集団の進行管理を行っている。

研究内容は、40~59歳の男女計260人 (各性・年齢階層65人) について、2日連続の来所を1か月間隔で2度、計4日間実施し、血圧測定8回、24時間蓄尿2回、24時間思い出し法による栄養調査を4回、採血1回を行うも

のである。調査にあたっては1997年7月に1週間の実施訓練を行い、ランダム・ゼロ血圧計を用いた血圧測定などの標準手技をマスターした者のみが研究に参加できるとの厳しい条件が課せられた。和歌山では住友金属和歌山製鉄所の全面的な協力のもと、1997年9月に被検者10人についての試行 (dry run) を行い、国際本部の査察を受けて、ようやく同年11月開始にこぎ着けた。

1998年3月17日現在で80人 (40歳代男38人、女23人、50歳代男11人、女8人) の調査を終え、47人 (40歳代男17人、女15人、50歳代男6人、女9人) は2回目までの来所を終えている。幸い、対象者は非常に協力的で、調査は1日12人平均で順調に進行している。今のペースでいけば、本年7月頃にはデータ収集は完了できる見通しとなった。

本調査には教室員はもとより、和歌山健康センター (茂原治理事長) の深いご理解により、多くのスタッフの参加と場所の提供を得て、このように順調に研究が推進できるもので、感謝に堪えない。今回のような国際共同研究に基づいた栄養と血圧に関する知見が人間集団で明らかになれば、今後職域における栄養指導の向上に理論的にも寄与することができると思っている。



第3回 研究室見学交流会参加報告
(大阪大学・環境医学教室見学)

織田 行雄 (大阪医大衛生・公衆衛生)

9月24日 (水) 午後2時から大阪大学医学部・環境医学教室で行われた近畿産業衛生学会第3回研究室見学交流会に出席させていただいた。まず大学院生を中心に6名の先生方の研究内容と研究時に使用している機器の紹介があった。研究内容としてはライフスタイルやストレス、DNA損傷を取り扱ったものが多かった。次に大阪大学医学部共同研究実習センターに移動し、センター専任教官の黒田正男先生からセンターの沿革から運営機構、

設備機器の種類や配慮について説明を受け、センター内を見学して回った。その後、環境医学教室のご厚意により、教室スタッフの先生方と交流会出席者との懇親会が行われ、出席者の自己紹介の後ざっくばらんに話が盛り上がった。

この見学会に出席して感じたことは、

- (1) 教授1名、助教授1名、講師1名、助手2名のフルスタッフが存在する上に大学院生、研究生が多くスタッフの数が充実しており、研究することに活気が感じられ、特に女性が多いこともあり教室内の雰囲気非常に明るかった。
- (2) 大阪大学医学部では毎年100名を越す大学院生が

入学するためであろうが、共同研究実習センターには設備機器の種類および量が豊富で、かつそれを扱えるセンター付きの教官が存在することが羨ましく感じられた。

中根 泰輔（近畿健康管理センター）

レジメをいただき、大学院の先生方からそれぞれの研究テーマについて親切に詳しく説明を受けた。

ストレスが生物に引き起こす一連の反応はストレス反応と呼ばれる。ストレス反応はある意味でCannonの提唱した生体のホメオスタシスを維持するための防御機構であると理解できる。それはマクロ的に見れば、神経系や内分泌系などの生体内情報伝達機構を介した反応であり、ミクロ的に見れば、細胞のエネルギー代謝の変化や酸化還元反応の変化に伴う細胞内伝達機構の変化と言える。

阪神大震災被災者のNK細胞活性調査や被災者の震災関連ライフイベントで見た災害ストレス、個人的要因とPTSDで見た精神的健康度との関連や被災者のコルチゾールや脳波を測定したストレス研究は、阪神大震災の影響をより深く理解できた。と同時に、研究のデザインに感心した。SCGを用いた実験では、イメージで描いていた細胞レベルでの損傷を顕微鏡で肉眼的に確認することができ、驚いた。酸化的DNA損傷と活性酸素に関する研究では、どのようにして細胞が自分のおかれている環境の酸素濃度を感知し、そのシグナルを遺伝情報転写翻訳機構に伝え、様々な遺伝子の誘導ならびに蛋白の新生に関わっているのか等に関心を持った。「ALDH2遺伝子型と飲酒行動」は身近な飲酒行動についての調査研究があり、興味深かった。産業医の仕事では、ストレスについての相談を受けることがあるが、様々な角度から研究されており、半日だけの見学ではあったが非常に有意義であった。阪大環境医学教室の先生方ありがとうございました。

ご 案 内

第1回産業衛生講座のご案内

と き 平成10年8月1日(土)

午後1時30分～4時30分

と ころ 大阪府医師会館大ホール並びに4階会議室

対 象 医師、産業保健看護職、衛生管理者、労働衛生コンサルタント、他

プログラム 講演Ⅰ 産業衛生総論

演者 堀口 俊一(大阪市立大学名誉教授)

講演Ⅱ 金属(化合物)による障害

演者 住野 公昭(神戸大学教授)

日本医師会認定産業医研修3単位付与
〔基礎研修(後期)〕/生涯研修(専門)

お わ び

前号ニュース記事の近畿産業衛生学会座長のまとめ201～205が編集の誤りで抜けていました。座長の先生、演者の先生、また会員の先生方に御迷惑をおかけしたことをおわびいたします。

座長 小泉直子(兵庫医科大学・公衆衛生)

201: データマイニングの手法を用いた健診データの解析

加藤俊夫ら(三菱電機系統変電・交通システム事業所健康増進センター)

マーケット・リサーチなどに導入されているデータマイニングの手法を用いて、1996年の4月から9月までの5770名について健診データの解析を行った結果、「精神状態が悪いと仕事がうまくいかない」などいくつかの意味がありそうなルールが抽出された。

202: 健診とプライマリ・ケア(その4)

—健診症例の再検討—

中野碩夫ら(m・oクリニック)

通常の健診ではとらえられにくい受診者の問題点(慢性病、難治病、職業関連病など)は、プライマリケアの観点から総合的に再評価し、早期発見、早期治療、QOLを基本とする疾病予防管理が有効であると報告した。

203: 健診にみられた耐糖能異常の背景因子に関する検討

瀧本忠司ら(NTT大阪中央健康管理所)

2459名の定期健診の結果、HbA1cが5.8%を超えると、収縮期血圧、拡張期血圧、血中総コレステロール、中性脂肪、 γ -GTPが有意に高く、HDLコレステロールが有意に低くなった。糖尿病の一次予防には肥満の防止や是正が重要である。

204: 社内健診におけるがん発見率の向上について

國井立志ら(新キャタピラー三菱・明石健康管理室)

某事業所において、画像診断機器の更新、新設とともに診療放射線技師による健診の精度向上をはかり、専門医による精査を受診させることにより、前年までの結果に比べて癌発見率が著明に増加した。

205: 大腸腫瘍患者の職場復帰について

鍵谷俊文ら(全日本空輸大阪健康管理センター)

大腸癌患者が職場において、癌告知から死亡に至るまでの病状経過の中で、産業医が主治医、職制のコーディネーターとして職場復帰を支援していくことが重要であることを、2例の事例より報告した。

幹事会報告

平成9年度第4回幹事会のまとめ

日時：平成10年1月22日（木）16:40～18:45

場所：大阪市立大学医学部 附属病院18階
第2, 3会議室

出席者：理事 堀口、藤木、池田、徳永、圓藤
幹事 山下、中嶋、宮下、樹屋（代理 阿部）、
上田（代理 植本）

欠席者：埜田、中村、宮上、小泉、河合、岡田

—順不同、敬称略—

事務局：大原、安田

議題

- (1) 近畿地方会総会
シンポおよびシンポジスト時間配分等の決定
- (2) 平成9年度決算（案）および平成10年度予算（案）
- (3) 平成9年度事業報告（案）
および平成10年度事業計画（案）
- (4) 新パソコンおよび名簿管理ソフトの進捗状況について
パソコンを購入し本部の名簿を新名簿管理用ソフト
で展開中
- (5) 近畿地方会役員選挙について
現役員の任期 平成8年4月1日から11年3月末日
本部の選挙改正の動向を確認しながら、前回と同様
に選挙準備委員会を設立し備えることを確認
- (6) 電話回線を利用して情報のやりとり
藤木財務担当理事から、近畿地方会と本部との情報
のやりとりをNIFTY-Serveで行いたいとの趣旨説
明があり、加入することを承認。
- (7) 産業衛生講座開講について
具体的な計画（講義内容、時間配分、収支）案を作
成し、臨時幹事会を開催し、再度検討することとなっ
た。

平成9年度臨時幹事会のまとめ

日時：平成10年2月9日（月）13:00～15:00

場所：大阪産業保健推進センター 会議室

出席者：理事 堀口、池田、圓藤、徳永
幹事 小泉、宮下、埜田、河合、上田
産業衛生講座開催代表者 住野、岡田

欠席者：藤木、中嶋、岡田、宮上、中村

—順不同、敬称略—

事務局：安田

産業衛生講座開講について

1. 産業衛生講座開催の主催は、近畿地方会とする。
2. 委員長：徳永 力雄

実行委員：圓藤 吟史、小泉 直子、上田 美代子

事務局：岡田 章（丸紅大阪健康開発センター）

3. 参加費等

会員は2,000円（非会員は3,000円）

近畿地方会から補助金等を原則として拠出しない。

4. 医師会の単位認定を行う

5. 実施予定日

年3回～4回、1開催につき3講義程度を目安とし
て実施する。

第1回 平成10年8月1日（土）

第2回 平成10年9月5日（土）

第3回 平成10年12月5日（土）

第4回 平成11年2月頃実施予定

上記講習会の他に小人数に分けて工場研修（実地研
修）も入れる。

6. 開催場所：大阪府医師会館とする。

7. 講習会講師：講習会カリキュラム案（圓藤吟史担当） にもとづいて各大学等に依頼する。

8. 会計報告：特別会計として1年間実施して収支を 地方会に報告する。

9. 総会の承認

上記内容を総会（5月22日）に報告して、会員の承
認を得る。



原稿募集

盛岡の学会の見聞録の原稿を募集いた
します。400～1,200字程度で御投
稿ください。

写真も白黒（原画はカラーで可）で掲載可能です。
ワープロの場合は、フロッピー添付いただければ幸いで
す（写真、フロッピー返却必要な場合はあらかじめお申
し出ください）。

編集後記

盛岡の学会見聞録、たくさんのご投稿をお待ちしてい
ます。よろしくお願いたします。また、本年に次期役
員選挙が行われますので、地方会ニュースにも事務局や
選挙管理委員会等からの選挙関連のお知らせを順次掲
載します。 (宮上)

編集・企画担当者

（広報担当幹事・事務局員）

池田正之、上田美代子、埜田和史、中村俊子

中嶋千晶、宮上浩史、大原昭男

次回発行日 1998年7月1日

次回原稿締切日 1998年6月1日